

＼ 県内有数のイチゴ産地で就農支援 ＼
JA西三河いちごスクール



今年は1人が専業農家として就農、3人がスクールで学ぶ

県内有数のイチゴ産地である愛知県西尾市では、産地の維持拡大に向けて新規就農者の支援・育成に力を入れています。

「いちごスクール」はJA西三河いちご産地振興委員会※が主催する施設栽培イチゴ新規就農者育成プロジェクトで、累計5期で18人の修了生を輩出。今回卒講する6期生はJA西三河いちご部会に入会し、市・JAのサポートを受けながら専業農家としての就農準備を進めて今年11月頃からの出荷を目指します。

6月5日にはスクールの修了式・開校式を行い、5月29日にはスクール生が西尾市長を表敬訪問し、スクール修了の報告および本格就農に向けて意気込みなどを語ります。



西尾市長を表敬訪問するスクール生ら(令和6年6月)

※JA西三河いちご産地振興委員会はJA西三河いちご部会・JA西三河・JAあいち経済連・西尾市・愛知県などで組織しています

◆ **西尾市長への表敬訪問**

【日時】
令和7年5月29日(木) 午前10時～
【場所】
西尾市役所3階 応接室

【参加者】
JA西三河いちご部会 部会長 加藤眞佐吉
いちごスクール運営委員長 鈴木太
いちごスクール修了生(6期生) 神谷悠介
JA西三河 営農部指導販売課 課長 青山義宏
JA西三河 あぐりセンター小牧 センター長 高須博文
など

◆ **いちごスクール 修了式・開校式**

【日時】
令和7年6月5日(木) 午前10時～
【場所】
あぐりセンター小牧 2階会議室
(西尾市吉良町小牧梶見堂35番地)

【参加者】
JA西三河いちごスクール 6期生1人、7期生3人
JA西三河 代表理事組合長 齋藤種治
など



【お問い合わせ・ご連絡先】
JA西三河(西三河農業協同組合)
〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15
企画室企画課 広報担当: 山本、尾形
TEL: 0563-56-5214 担当者携帯: 070-1414-6818
HP: <https://www.ja-nishimikawa.or.jp/>
Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com



《JA西三河ホームページ》
その他のニュースリリースは
こちらからご確認ください

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

西尾市のイチゴ生産

～新規生産者の育成、産地規模の維持拡大に向けて～

◆ JA西三河いちごスクールとは

JA西三河いちごスクールは、西尾市における施設栽培イチゴの新たな担手の確保・定着を目指して、愛知県・西尾市とJA西三河、JA西三河いちご部会により設立された「JA西三河いちご産地振興委員会」により平成30(2018)年にスタートしたプロジェクト。

施設栽培イチゴ専業農家としての新規就農を希望するスクール生は、受講期間の1年間、現役のイチゴ農家から主に栽培管理や収穫・パック詰めなどの実務指導を通じて手厚い指導を受けます。

また並行してJAや県・市による座学研修も開催し、栽培技術・経営管理の両面からイチゴ専業農家として必要な知識・技術を習得します。

スクール開講以降、5期でのべ18人(今年6月修了の6期生含まず)がカリキュラムを修了。全員がイチゴの専業農家として、JA西三河いちご部会より出荷を行っています。修了生は就農後も、栽培技術・経営面でのサポートを部会やJAから受けることができます。

※いちごスクールに関する事項については、
JA西三河ホームページをご参照ください。



【ほ場巡回】イチゴの生育状況を見ながら水管理や温度管理について学ぶスクール生ら

【いちごスクール 研修内容】

- 基礎研修:** 生理生態・品種特性等、肥料・農薬、施設設備等、栽培の知識
- 実務研修:** 受入農家にて栽培技術、収穫・パック詰め等の出荷調整
- 経営管理:** 施設投資、税務申告等の経営に必要な基礎知識
- 就農準備:** 農地取得・資金調達等の就農に必要な知識・手続き
- 視察・交流:** JA西三河いちご部会部会員との交流

◆ JA西三河いちご部会の特徴

西尾市内のイチゴ農家で組織するJA西三河いちご部会では、81人の生産者が高設栽培(章姫)・土耕栽培(紅ほっぺ)でイチゴを生産しています。生産量928トンは県内でもトップクラス。大きなロットでの出荷を有利販売につなげています。

毎年冬には、需要の高いクリスマス時期に最初のピークを合わせるよう栽培を調整。この時期には業務用イチゴ(主にクリスマスケーキ用)の出荷も行い、安定した高品質が製菓業者に高く評価されています。

令和5年度からはJAおよび愛知県・農研機構等12の企業・自治体や研究機関で組織する「日本をリードするJA西三河いちご部会におけるスマート農業実証コンソーシアム」による施設栽培イチゴにおけるスマート農業※の実証事業がスタート。同部会の生産者の高い技術力を土台に、国内最先端の施設園芸の実現を目指しています。

※スマート農業:ロボット、AI、IoTなどの先端技術を活用する農業のこと。同コンソーシアムでは、①局所環境制御による収量の安定および海外依存度の高い農業資材の削減、②選果システムの導入による収穫調整の労力削減の有効性、③画像処理による出荷量予測 といった課題について上記のような最先端機器を駆使して安定販売の有効性の検証を行っている。



選果風景

【生産者部会情報】

- 名称: JA西三河いちご部会
- 出荷量: 928トン(R5年度実績、業務用出荷含む)
- 部会員数: 81人 耕作面積: 約17.3畝
- 流通先: 愛知県・石川県・新潟県
- 収穫期: 10月下旬～6月(最盛期は4月頃)